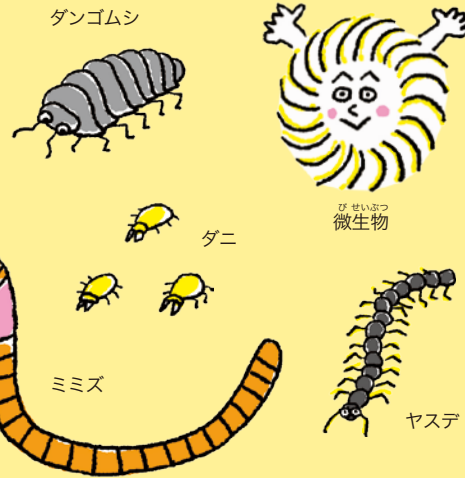


土の生きもののチーム

枯れた草の茎葉・根や堆肥などの有機物を分解して作物の養分に。ミミズのあけた穴は水と酸素と根の通り道に。

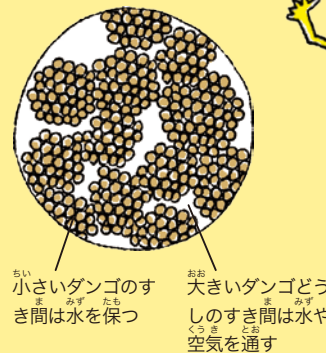
ぼくの糞は団粒構造そのもの！



草チーム

根は硬い土に穴をあけ、菌根菌も増やす。草を刈って草マルチにすると、土の生きものが増える。

団粒構造の土
土の中の有機物（腐植）が「のり」となって土の粒子がくっつき、大小の粒になる



作物がよくそだつ土の3つの条件

化学性

ほどよい養分がある

作物に必要な養分がバランスよく保たれている。土の酸度(pH)も作物に合っている。

物理性

水はけよく、水もちもいい

土の中に適度に水や空気が含まれている。余分な水は抜ける。団粒構造の土が理想。

生物性

生きものたくさん

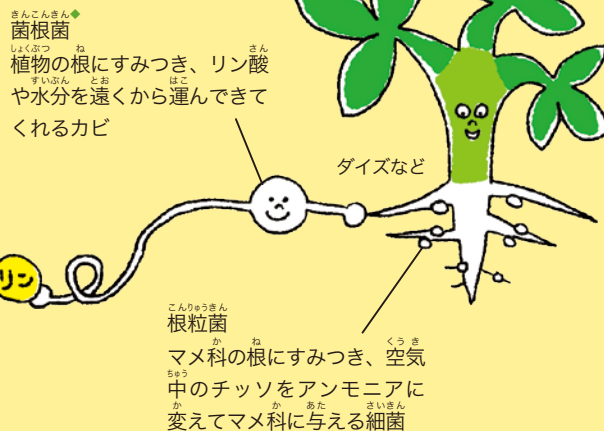
有機物を分解し、ほくほくの土(団粒構造)づくりに貢献する。

土づくりに役立つ生きもの

ここにある3チームの生きものを生かす環境をつくって、作物がよくそだつ土にとのえていくよ。

マメ科植物チーム

根粒菌からチッソをもらうのでやせた土でもそだつ。野菜と一緒に植えると共によくそだつ。



作物のそだつ土って？

お金も機械もない。どうやって土づくりしたらいい？自然菜園の先生に聞いてみたよ。

まだ田んぼの土だった

編集部は早紀ちゃんとともに、連載「はじめよう！自然菜園」(58ページ)でおなじみの長野市の竹内孝功さんの畑へおじゃました。竹内さんは、早紀ちゃんと同じく「もと田んぼ」だった土地を、豊かな畑にした先輩なのだ。竹内さんが早紀ちゃんの畑の写真を見た感想は？



いまの土(ウネの中の土) もとの土(通路の隅の土)
粘土質の田んぼを畑にして4年目の土。もとの土はカチコチに固まっているが、いまの土はボロボロとくずれる。土づくりの成果

土の中に安定してあり、多様な生きものがいる土にしておく必要がありますね。
あ、お金も機械もないんですけど、どうやればいいですか？
「大丈夫。生きものの力で土づくりすればいいですよ。草、マメ科植物、ミミズ、微生物たちの力を生かして『水はけよく、水もちもいい』団粒構造の土をつくってもらいましょう。人間は、生きものが活躍できる環境をとのえるだけです」

竹内孝功さんの畑。田んぼを畑にしてから2年目。昨年はダイズだけをつくり、今年はナスやトマトなどとマメを混植

大丈夫。もと田んぼでも野菜のそだつ土にできますよ

